

石

栗山政子

この家も隣も山茶花の垣根
 待春や幹を叩けば幹匂ふ
 神木へ声のぶつかる春隣
 一夜明けまさかの位置に落椿
 鳥ぐもり石動かせば大き穴
 水中を風そよそよと水草生ふ
 星おぼろ石のベンチのこそばゆし
 風の辛夷おほきな雲を呑み込みぬ
 陽炎の近づいて来る遠くなる
 蝌蚪数ふ平らな石に膝をつき